大型コンテナ船に対応した神戸港の港湾整備

ポートアイランド(第２期)地区の岸壁工事と六甲アイランド地区の航路･泊地等関連工事を見学

スケールに圧倒、兵庫工業高校の生徒ら約 40 人が参加

12 月 10 日、社団法人日本埋立浚渫協会主催の「うみの現場見学会」が開催されました。港湾土木の現場を訪れ、先端技術と海の現場ならではの迫力を感じてもらうとともに、人々の生活に不可欠な社会インフラの大切さを伝えるこの見学会も今回で 12 回目。今回は、今年８月に大阪港と一体で「国際コンテナ戦略港湾」に選ばれた神戸港で進む「神戸港ポートアイランド（第２期）地区岸壁（PC−14 ～ 17）改良工事（第１工区）」と「神戸港六甲アイランド地区航路・泊地（−15m）等（RC−7）浚渫（附帯施設）工事（第２工区）」を見学してもらいました。

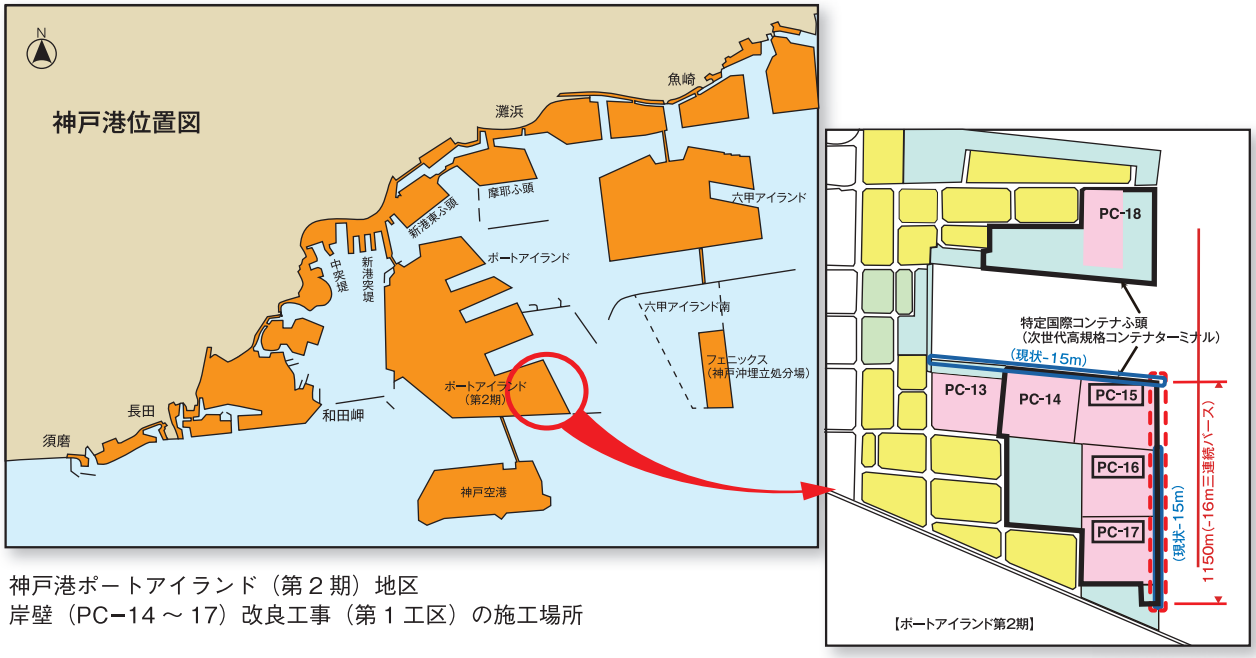


挨拶する津田企画広報委員長

ご参加いただいたのは、兵庫県立兵庫工業高等学校の都市環境工学科２年生の生徒さんたちと引率の先生、約 40 名。見学会では当協会の津田映企画広報委員長が「本日の見学会は約半日と短い時間ですが、普段の生活では見る機会の少ない海の工事がどのようなものか、体感していただければ幸いです」とあいさつ。続いて両工事の発注者である国土交通省近畿地方整備局神戸港湾事務所の國重康弘副所長より、神戸港の歴史や役割、現在施工・計画中の整備事業などについて説明がありました。

港湾の国際競争が激しさを増す中、世界有数の貿易港として名を馳せた神戸港も相対的な地位が低下しており、神戸港の復活に向けた大水深化と耐震強化が必要となっていました。今回、見学先となった神戸港は、2004（平成 16）年に国から大阪港とともに「スーパー中枢港湾」の指定を受け、大型コンテナ船に対応する整備事業が進められています。

生徒たちは、まず「神戸港ポートアイランド（第２期）地区岸壁（PC−14 ～ 17）改良工事（第１工区）」の現場を訪れました。神戸港ポートアイランドの最も東南側に位置する PC14 ～ 17 の岸壁のうち、PC15 ～ 17 岸壁で耐震補強と岸壁増深対策を行い、延長 1150m の連



神戸港ポートアイランド（第２期）地区
岸壁（PC−14 ～ 17）改良工事（第１工区）の施工場所



神戸港六甲アイランド地区航路・泊地（－15m）等（ＲＣ－7）浚渫（附帯施設）工事の施工場所

続バースに改良する工事です。完成後の連続バースには10万トン級の超大型コンテナ船2隻が同時に着岸できるようになります。

工事は既存の構造物撤去工から始まり、続いて上部工、アンカー工、付属工、復旧工が行われる計画です。現在、先行着手した1工区（PC15～16）では工事がほぼ完了しており、2工区（PC16～17）では復旧工、3工区（PC15）では上部工が順調に進んでいます。来年3月にすべて完了する予定です。

施工を担当する五洋・若築・あおみＪＶの西口松男工事所長の説明を聞きながら、施工中の岸壁の上を実際に歩いた生徒たちは、スケールの大きい港湾工事の迫力に興奮している様子でした。その後、岸壁から船に乗り込み、六甲アイランド沖で進行中の「神戸港六甲アイランド地区航路・泊地（−15m）等（RC−7）浚渫（附帯施設）工事（第2工区）」の施工区域に向かいました。

この工事では、重量10～500kgの基礎捨石などを沈下させ「潜堤」を築いています。神戸港では浚渫土の処分場が不足しており、周辺海域で行なわれる浚渫工事で発生する大量の浚渫土を受け入れるために、この潜堤が計画されました。すでに一部で浚渫土の受け入れも始まっています。

船上で生徒たちは、この工事を担当する東洋・あおみ・大本JVの平井義人現場代理人の説明に耳を傾け、ふだん見ることのできない海上工事の建設現場を、船から少し身を乗り出したりして熱心に見学していました。

我が国の国際競争力の維持・向上を目指して進む両工事に触れ、生徒たちは海に囲まれた我が国の港湾の重要性を認識し、さらに世界を意識する貴重な経験を得たことでしょう。


熱心に説明を聞く生徒たち


海上から建設現場を見学

（社）日本埋立浚渫協会ホームページのご案内

港湾土木の迫力ある現場をWeb上で訪ねる http://www.umeshunkyo.or.jp/

当協会のホームページでは、海洋土木技術や貴重な港湾遺産、港湾整備の歴史などを皆様に分かりやすくお伝えしています。小学生や中学生の皆さんにもご理解いただけるようイラストやアニメーションによる「みなとkids」のコーナーも設けています。

このうち、「うみの現場見学会」ではこれまで開催された12回分の見学会の様子をリポートしています。ご参加いただいた方々は延べ700人を超え、北は苫小牧港から南は北九州港まで、地盤改良や埋め立て、浚渫、沈埋トンネルなどの現場を訪ね、港湾土木の迫力ある現場を体感していただきました。是非、ご覧ください。



